

## 巻頭言－ 25巻記念号に寄せて－

筑波大学 小島 弘 道

『学校経営研究』は、このたび記念すべき第25巻を刊行する運びとなりました。会員の皆さまと共に喜びたいと思います。偶然とは言え、ことしは初代会長の吉本二郎先生が他界されて10年になります。先生の教えを受けた者が先生の生前をしる機会を得たいと考えていたので、本巻を神前にお供えすることができました。

現在の学校経営改革は、戦後第3の改革であり、その原理、規模、影響力において、それにふさわしいものとなっております。「学校の自律性と責任」を特集テーマと掲げたのも、こうした改革を受けてのことです。本テーマを多面的、多角的に検討し、そのあるべき姿を解明しようとしたもので、本研究会が成立当初から追究してきたテーマでもあります。

これまで、今「学校経営はおもしろい」、「学校経営の時代だ」ということを機会をとらえて述べてきました。その通りになったと思います。学校経営を研究テーマとしてきたことを大きな喜びとするところであるし、また誇りに思っています。「56年体制」が、大きく変容している中であって、これからの学校経営研究は、その真価を問われることとなります。大塚学校経営研究会の存在、役割はより一層大きくなるかと考えます。記念すべき25巻を踏まえて、更なる発展を会員の皆さまと努力したいと思います。

座談会「25年を振り返って」では、本研究会の創設にかかわった会員が思い出を語り、今後の研究会の在り方、学校経営研究の方向について述べています。あらためて、読んでみると過去25年があったから、今こうした研究会になっているという思いを深くいたします。

記念すべき本巻が、正真正銘、第3の学校経営改革の現在にふさわしい内容になっていると、率直に語る事ができる喜びを幸せに思います。これを機に、会員各位が研究をさらに発展されますことを期待します。